

研修No. 85

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 15日
研究・研修課題名	2022年度がんのリハビリテーション研修
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院(リハビリテーション部)
研究・研修責任者名(所属)	稲垣杏太(リハビリテーション部)
研究・研修実施者名(所属)	石倉香澄、岸 咲貴子(医師)、大野明美(看護部)、花田優香、平野瑛士、稲垣杏太(リハビリテーション部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	石倉香澄、岸 咲貴子(医師)、大野明美(看護部)、花田優香、平野瑛士、稲垣杏太(リハビリテーション部)
学会名(会期・場所)、認定名等	2022年度がんのリハビリテーション研修
演題名・認証交付元等	一般財団法人ライフ・プランニング・センター(厚生労働省委託)
取得日・認定期間等	2022年11月26日
診療報酬加算の有・無	<input checked="" type="checkbox"/> 加算有(がん患者リハビリテーション料) <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

当院はがん診療連携拠点病院であり、がん患者へのリハビリテーションの提供が必須である。がん患者リハビリテーション料を算定するには、指定された研修を修了した医師が指示書を処方することと、指定された研修を修了した療法士が担当することが条件となっている。がん患者に対するリハビリテーション依頼は増加傾向であり、対応できるスタッフ数を増やし、医師や療法士が連携し質の高いリハビリテーション医療を提供することを目的に本研修を受講した。

②方法

2022年9月15日から配信を開始されたeラーニングの講義15コマを各自で受講し、確認テストを修了した上で、11月26日に開催された集合学習に医師2名、看護師1名、理学療法士2名、作業療法士1名がチームとして参加した。

③成果

eラーニングにおいては、下記のプログラムの通り充実した内容を繰り返し学ぶことができ、がん患者のリハビリテーションを実施するうえで必要な最新の知識とスキルを身につけることができた。

- 1) がんのリハビリテーション診療の概要
- 2) 乳がん周術期リハビリテーション診療
- 3) 頸部郭清術後のリハビリテーション診療
- 4) 開胸・開腹術における周術期リハビリテーション診療
- 5) 脳腫瘍周術期のリハビリテーション診療
- 6) 化学療法・放射線療法に関連する有害事象とリハビリテーション診療
- 7) 造血器腫瘍・造血幹細胞移植のリハビリテーション診療
- 8) 転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション診療

- 9) ADL・IADL 障害に対するリハビリテーション診療
- 10) がんのリハビリテーション診療における看護師の役割
- 11) がん患者の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害
- 12) がん患者の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害、口腔ケア
- 13) がん患者の心理的問題
- 14) がん悪液質に対するリハビリテーション
- 15) 緩和ケアを主体とする時期のリハビリテーション診療

またグループワークでは、当院におけるがんのリハビリテーションの問題点を挙げ、改善策まで協議することができた。そして症例に対する模擬カンファレンスを開催し、各職種での役割やアプローチについて意見を出し合うことができた。これにより、がん患者のリハビリテーションに必要なチーム力を高めることができた。加えて、他の病院の特徴や問題点、解決策などを聞くことにより、各病院の実情や工夫点を知ることができ、知見が広がった。

今回の受講によりがんのリハビリテーションの依頼が増えている現状に対応できるよう、6名のスタッフが研修を修了した。結果として、既存の療法士全員ががんのリハビリテーション料を算定できるようになった。よって、がんに関連する様々な手術や治療によって必要になるリハビリテーションへの対応がよりスムーズになった。特に手術前から呼吸機能合併症予防や、体力向上を目的としたリハビリテーションの依頼は増加し続けており、術後の合併症や早期退院という効果も期待されている。また、当院には働く世代や AYA 世代のがん患者も多いため、日常生活に復帰するだけでなく、復職や復学に向けた視点も重視して取り組みたい。今後もニーズが多様化し、増え続けるがん患者に対応すべく、質の高いリハビリテーションを提供できる力を強化していきたいと考える。